

はじめに

「トカチ」の名前の元は「トカプ」です。トカプとはアイヌ語で乳の意味で、河口がふたつに分かれて海へと注いでいる様子を、乳房から尽きることがなく乳が流れ出ている様子になぞらえて、名付けられました。この他にも名の由来には色々な説がありますが、根拠が定かではないので、ここで書き記すことはやめておきます。

十勝川は蝦夷地東部の第1の大河で、母なる川と呼ぶにふさわしく、これに対して石狩川は父なる川といったところでしょう。この場所は箱館から590キロほどのところにあり、当時、松前藩の家臣がアイヌ民族と交易を行うために設置した「場所」のひとつ、幌泉場所の境にあるビタダヌンケから、クスリ（釧路）場所との境である築別までの一帯を指します。海岸沿いにおよそ90キロ、内陸では200キロほどあり、釧路、網走、常呂、石狩、沙流、新冠、静内、浦川、様似、幌泉の

11の場所に接しています。

十勝川の源流は石狩川の源流と背中合わせになっており、今回私が山を越える場所はその分水嶺のひとつです。アイヌの人がこの山を越えることはありますが、これまでに和人がこの山を越えたことは一度もないといえます。

しかし、今回私はあるがたいことに、箱館奉行所の命を受け、開拓のためにこの山道の調査を行うこととなり、氷雪の上を石狩から入り、十勝に出て、その間の出来事を日誌5巻に書き記しました。今回はその中から大まかな内容を抜き出して、石狩川流域については「石狩日誌」に記し、チクベツト（現在の旭川市忠和の辺り）から、札内川と十勝川が合流するサツナイブト（現在の幕別町の辺り）までを詳しく記して、1冊にまとめ「十勝日誌」と名付けました。

しかし、十勝川の10の支流については今回の探査では調べていないため、ここには記さず、本流や川筋のオホツナイ川までのことを書き記しました。